

日本伝熱学会関西支部 第25期定時総会 特別講演会、第26期第1回講演討論会のお知らせ

日時：2019年4月26日（金）13:00～17:00

会場：大阪府立大学 I-site なんば（2F カンファレンスルーム）

〒556-0012 大阪市浪速区敷津東2丁目1番41号 南海なんば第1ビル

<https://www.osakafu-u.ac.jp/isitenanba/about/map/>

13:00～13:30 関西支部第25期定時総会

13:40～15:40 特別講演会

13:40～14:40 千田 衛 氏（同志社大学）

題目：大学の変容

概要：1990年代に入ると、大学では様々な構造改革が現在に至るまで進められてきた。約半世紀に亘って過ごした大学を去るにあたって、昔と今の大学・学生を顧みて、日頃感じている大学の変容について考えてみたい。

14:40～15:40 功刀 資彰 氏（京都大学）

題目：沸騰現象のマルチスケール・シミュレーション

概要：沸騰熱伝達に関する数多くの研究がなされてきたにも拘らず、核沸騰機構の解明は未だに未解明であり、非経験的な機構論的モデルの構築は進んでいない。沸騰現象に関する時空間スケールは過熱層形成過程での熱伝導支配の分子スケールから気泡成長・離脱過程での熱対流スケールまで極めて広い。特に、核生成過程では高速な分子運動を考慮しなければならず、相変化に伴う時間スケールでの熱非平衡性が重要な役割を担うものと考えられ、数値シミュレーションは沸騰伝熱特性を記述し、議論するために有効なアプローチと考えられている。本講演では、各現象スケールに応じた解析手法の物理的問題点について解説するとともに、残された課題について議論する。

15:40～16:00 休憩

16:00～17:00 第26期第1回講演討論会

16:00～16:30 網 健行 氏（関西大学）

題目：電気二重層を考慮した気泡離脱における濡れ挙動の数値解析

概要：プール沸騰における気泡離脱過程において、気泡下部に形成されるマイクロ液膜の濡れ挙動が重要な役割を果たす。本研究は、電気二重層によるクーロン力による界面張力を考慮し、VOF法を用いた数値解析を実施したので報告する。

16:30～17:00 中田谷 直広 氏（Hitz 日立造船）

題目：ごみ焼却炉の燃焼数値解析技術の開発

概要：日立造船では、ストーカ式ごみ焼却炉で生成されるNOxの予測を目的として、ごみ層の挙動と気相燃焼の相互作用を考慮した数値解析技術の開発を行っている。

本講演ではこれまでの取り組みとその結果の概要を紹介する。

18:00～20:00 意見交換会

会場：道頓堀クラフトビア醸造所 なんばCITY、会費：4,000円程度

大阪府立大学 I-Siteなんば 交通アクセス

- 南海電鉄「なんば駅（中央出口）」下車、南海線東側の道を南へ約800m、徒歩約12分
 - 地下鉄御堂筋線「なんば駅（5号出口）」下車、南へ約1,000m、徒歩約15分
 - 地下鉄御堂筋線・四つ橋線「大国町駅（1番出口）」下車、東へ約450m、徒歩約7分
 - 地下鉄堺筋線「恵美須町駅（1-B出口）」下車、西へ約450m、徒歩約7分
 - 南海電鉄高野線「今宮戎駅」下車、北へ420m、徒歩約6分
- （ご注意）建物北側の大阪府立大学専用入口からお入りください。



道頓堀クラフトビア醸造所 なんばCITY

